

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：35307

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12938

研究課題名（和文）平安期和歌と『源氏物語』享受に関する多層的研究

研究課題名（英文）Study on Heian Period Waka and the Reception of "The Tale of Genji"

研究代表者

瓦井 裕子（Kawarai, Yuko）

就実大学・人文科学部・准教授

研究者番号：20823967

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、『源氏物語』の享受実態を平安期和歌を通して明らかにし、鎌倉初期に至る『源氏物語』享受史を再構築した。具体的には、従来看過されがちであった平安期の『源氏物語』を撮取する和歌を重要な享受資料として位置づけ、詳細に検討することにより、平安期の『源氏物語』享受の実態を明らかにした。それにより、平安期に『源氏物語』がどのように享受され、文化的影響力を持つに至ったか、それが中世の『源氏物語』享受といかに繋がっていくのかという通史的研究の基盤となる視座を提供した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、和歌によって『源氏物語』享受の黎明期の実相を解明することにより、平安期の享受が中世以降の享受へとどのように継承され変容していったのかという享受史を通観する上での架け橋となって、享受史全体をも再考させるものである。具体的には、平安・鎌倉期の『源氏物語』を享受する和歌を通して、当時流布していた本文、その本文に基づいた当時の解釈や享受作品の生成、異文が発生していく過程について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study clarifies the actual state of the reception of The Tale of Genji through waka poetry of the Heian period and reconstructs the history of its reception up to the early Kamakura period. Specifically, the waka poems derived from The Tale of Genji during the Heian period, which have tended to be overlooked in the past, are positioned as important sources for the reception of The Tale of Genji. Through a detailed examination of these waka poems, the actual conditions of the reception of The Tale of Genji during the Heian period are elucidated. This provides a foundation for a comprehensive historical study of how The Tale of Genji was received and attained cultural influence during the Heian period, and how this reception extended into the medieval period.

研究分野：日本古典文学

キーワード：源氏物語 和歌

## 1. 研究開始当初の背景

『源氏物語』は我が国のさまざまな文化に多大な影響を与えた重要な作品であり、『源氏物語』をいかに享受してきたかという問題は、我が国の文化を明らかにする上での不可欠な視点である。享受史は常に前代の享受の在り方を受けて展開するため、享受の通史的視点は、各時代の実態を深く掘り下げることによって初めて獲得される。

しかし、従来の『源氏物語』享受の研究は鎌倉期以降に偏って行われ、その原点である平安期の研究は立ち遅れていた。その理由は、平安期の享受資料(本文・注釈など)が極めて乏しいためである。このような状況の中、和歌における『源氏物語』摂取は、最も早い享受の実態を解明しうる資料として豊かな可能性を有している。和歌史においては『源氏物語』の成立とほぼ同時に源氏摂取が認められ、成立から半世紀の間における例も複数報告されており、平安期和歌では継続的に源氏摂取が行われたことが想定される。この平安期和歌を視座とすることにより、資料の乏しさのために手付かずであった平安期の『源氏物語』享受の実相を解明できる研究上の可能性があった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、平安期和歌を用いて『源氏物語』享受とそれを取り巻く文化的背景を把握することにより、享受研究における基盤的視座を提示することにある。

鎌倉初期は和歌において非常に盛んな『源氏物語』享受が巻き起こり、享受史上非常に重要な時代であるが、このような現象が起こるには平安期における相応の『源氏物語』享受の蓄積があったと考えられる。今日の『源氏物語』享受史研究は、その始発点である平安期の実相解明が放置されており、この時代的断絶は、享受史や和歌史を一続きのものとして連続的に把握する上で大きな障壁となっている。平安期における『源氏物語』享受の実相を解明し、享受史・和歌史における鎌倉期とそれ以前の断絶を埋める通史的な研究成果を提供することを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は、平安期和歌から『源氏物語』を享受する和歌を掘り上げ、これらを質・量共に最も豊かな平安期の『源氏物語』享受資料として学界に示すものである。和歌は詠者・詠歌年・詠歌状況などの詳細な情報を備えていることが多く、具体的な享受実態を解明できる資料となりうる。このような情報を広範に採取して積み上げていくことにより、当時の『源氏物語』享受の実態を克明に描き出す。

また、その本文に注目することによって詠者の依拠していた『源氏物語』本文を明らかにし、定家本系統が主流になる室町期以前の本文の状況の一端を解明する。

#### 4. 研究成果

本研究の成果は、以下の3点に大きく分けられる。

##### ▼『源氏物語』撰取歌が依拠する『源氏物語』本文

『源氏物語』を享受する和歌が、どのような『源氏物語』本文に依拠しているかという問題意識のもと、数例についてそれを明らかにした。特に平安末期から鎌倉前期の御子左家の和歌における『源氏物語』撰取について取り上げ、定家やその周辺の『源氏物語』享受においても、定家本系統の『源氏物語』のみでは彼らの『源氏物語』享受実相を把握しがたいことを指摘した。従来の活字本にのみ依拠した研究から脱し、それぞれの本文がどのように享受されたかについて、その一端を明らかにしえた。また、平安期から鎌倉期の『源氏物語』撰取歌のうち、依拠した本文を絞りこめる例においては、その本文が別本や河内本系統である場合が多いことを突き止め、当時流布していた『源氏物語』本文を明らかにする上でも重要な成果を得た。

##### ▼陽明文庫本『源氏物語』の校訂本文・現代語訳・注釈の公開

『源氏物語』別本の代表的本文とされる陽明文庫蔵『源氏物語』の校訂本文・現代語訳・注釈を行い、桐壺巻についてオープンアクセスの形で公開した。

現在の『源氏物語』注釈書は、定家本系統、特に大島本に大きく依存している。その問題点はさまざまな角度から提言されているところである。しかし、その研究状況が、諸本の影印などの刊行や電子公開が進んでもなお改善しない一因は、簡便に読める校訂本文や現代語訳がないことにあると考えられる。本成果の公開によって、研究者をはじめ、学生や愛好者などが誰でも容易に読んで議論を深められるようになる。

##### ▼『源氏物語』作中歌の本文異同とその享受

『源氏物語』の和歌解釈に注目し、各写本の本文およびそれらの本文と『源氏物語』享受との関連を明らかにした。具体的には、数例の『源氏物語』作中歌を取り上げ、かつて現在とは異なる解釈が行われていたことを指摘し、その時々を解釈を反映して異文が生じていった可能性を論じた。その上で、平安・鎌倉期における享受作品の一定数が中世の解釈を前提としている可能性を指摘し、現行の解釈をもって過去の享受作品を議論することの危うさを述べて、その和歌を享受する和歌や散文作品への理解の見直しも含めた提言を行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 瓦井裕子	4. 巻 122
2. 論文標題 御子左家の『源氏物語』撰取歌と依拠本文	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和歌文学研究	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瓦井裕子・松本大	4. 巻 69
2. 論文標題 陽明文庫蔵『源氏物語』校注・訳（一） 桐壺巻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 詞林	6. 最初と最後の頁 1-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/79221	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 瓦井裕子	4. 巻 58
2. 論文標題 「夜の衣」と「中の衣」 『源氏物語』葵巻の源氏詠における本文異同をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 むらさき	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瓦井裕子	4. 巻 128
2. 論文標題 物語の中の歌ことば	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 和歌文学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瓦井裕子	4. 巻 73
2. 論文標題 『源氏物語』享受作品の可能性 須磨巻の源氏詠「うしとのみ」の解釈をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 詞林	6. 最初と最後の頁 18-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/90835	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 瓦井裕子
2. 発表標題 『源氏物語』須磨巻の源氏詠「憂しとのみ」の解釈再考
3. 学会等名 和歌文学会2022年4月関西例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 瓦井裕子
2. 発表標題 御子左家の『源氏物語』撰取歌における依拠本文
3. 学会等名 大阪大学古代中世文学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 瓦井裕子
2. 発表標題 物語の中の歌ことば
3. 学会等名 第69回和歌文学会大会, シンポジウム「平安朝和歌文学の世界 私家集・女房・物語」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岡田貴憲・瓦井裕子・小林理正・須藤圭・ノット・ジェフリー・古田正幸・松本大
2. 発表標題 本文データ作成・公開の今後 『諸本対照狭衣物語』 公刊をひかえて
3. 学会等名 「『狭衣物語』を中心とする中古物語鎌倉期本文の研究と資料整備」公開研究会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関